

## 文化財保存等のための代替品実用化研究

---

- ・背景
- ・三味線撥の代替品実用化研究
- ・その他

## 背景

### 1 文化財を取り巻く近年の環境

修理技術者や修理に用いる用具製作・材料生産の担い手、それに不可欠な天然素材の生産者の高齢化、減少、後継者不足により、多くの文化財保存技術（※）が継承の危機に瀕ひんしている。

※文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能

例：檜皮葺・柿葺、檜皮採取、三味線製作修理、阿波藍製造

### 2 保存のための取組（例）

#### ① 選定保存技術の選定、保持者・保存団体の認定

文化財保護法第147条に基づき、文化財保存技術で保存の措置を講ずる必要があるものを選定保存技術として選定し、その技術の保持者又は保存団体を認定。

保持者・保存団体による伝承者養成等の取組への支援。

#### ② 事業規模の確保

修理技術者や修理に用いる用具・原材料の製作者・生産者の需要の増加に資するよう、国指定文化財修理の事業規模を確保。

#### ③ 管理等業務支援、代替品実用化研究

修理に必要な高品質の用具・原材料の継続的な供給のために必要な製作・生産の管理等への支援、将来的に入手や生産が困難となる用具・原材料については代替品の実用化を研究。

## 三味線撥の代替品実用化研究

### 1 無形文化財における三味線撥

演劇、音楽、舞踊といった無形文化財に用いられてきた楽器については、如何に実演家の手になじみ、観客にも違和感なく受け入れられるかなど、無形文化財の価値を維持できるかという点が肝要。

三味線の撥に用いられる象牙は、すでに将来的に入手が困難になることが判明しており、重要無形文化財である歌舞伎や文楽、各種三味線音楽等の文化財的価値を維持・継承するためには、象牙の代替品による三味線撥の可能性を追求しておく必要がある。

### 2 代替素材の開発

#### 三味線撥に求められる機能

- ・ 高い機械的強度
- ・ しなやかさ
- ・ 加工のしやすさ
- ・ 親水性（手に馴染む）

#### 代替品としての条件

- ・ 実演家が求める機能の同時達成 等

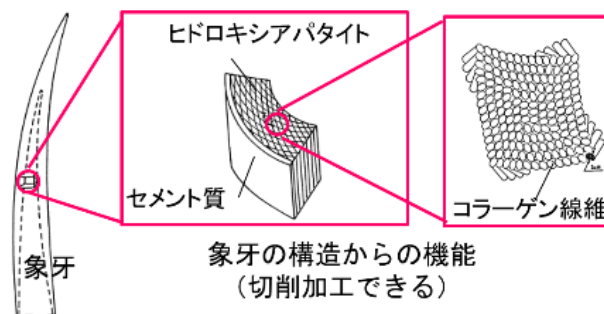
#### 関係者の意見を取り入れながら研究開発

- ・ 自然環境保全研究者
- ・ 素材の開発者
- ・ 演奏家
- ・ 楽器製作者
- ・ 無形文化財の専門家

#### 試作と試奏会の繰り返しによる改善



マルミゾウ象牙  
(ハード材)の三味線撥



## 三味線撥の代替品実用化研究

試奏会用 長唄用撥 丸撥 (長丸1～長丸4 新素材丸撥)



試奏会用 地歌用撥 丸撥 (地丸1～地丸4 新素材丸撥)



## 三味線撥の代替品実用化研究

### 3 課題

- ・楽器製作者による代替素材撥を加工する技術の構築と習得、継承

弾きやすさは、楽器製作者による微調整で達成される。演奏者ごとの個別仕上げも求められる。

- ・長唄用撥から、その他の三味線分野（例えば地歌用撥など）への応用の可能性

- ・新素材の化学組成の確定

等

### その他